

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床薬理学		講義	和中 敬子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
医薬品の形状、体内動態、作用機序、薬効に影響を与える因子などの総論を中心に学ぶ。各論については、時間の関係上、循環器系の薬物などの臨床工学技士に関連性の高い薬物や、一般的に日常で良く使用される薬物を中心に学ぶ。				
授業の到達目標				
臨床工学士として医療現場で必要な薬理知識を身につけ、適切かつ安全な治療を提供できるようになることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	薬理学とは			
2	薬物と医薬品 (新しい薬の開発)			
3	薬が作用するしくみ			
4	薬の体内挙動 (投与経路・吸収など)			
5	薬の体内挙動 (代謝・排泄など)			
6	薬効に基因する因子			
7	薬物の有益性と危険性			
8	抗感染症薬			
9	免疫治療薬			
10	循環器系に作用する薬物 (降圧薬など)			
11	循環器系に作用する薬物 (抗凝固薬など)			
12	循環器系に作用する薬物 (貧血治療薬など)			
13	中枢神経系に作用する薬物			
14	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物			
15	救急の際に使用される薬物			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	原則として記述式 (キーワードを用いて箇条書きが出来るように)		
レポート				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
系統看護学講座：薬理学	吉岡 充弘 他		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
今日の治療薬2022	島田和幸 他		南江堂	
自由記載				
備考				